

<<私の相場分析手法について>>

私は、くにやす・FX株式会社様にて、マーケットレポートを配信させて頂いている、マーフィーこと、榎木利彦です。

レポート配信に際しまして、私の相場分析手法について簡単にご説明させて頂きたいと思っております。

■相場を行う上で一番大切なことは、今現在の相場が買いなのか、売りなのかを知ることです。

一般世の中では、「相場の予想」に関心が向かう傾向がありますが、これから先の相場を「予想」することは、実は、実際にトレードを行う私達にとって良くないことなのです。

何故ならば、「予想」をすること自体が多く弊害を生むからです。

これから起こる相場の「予想」に拘ると、結局は期待感をもって相場を見てしまい、損切りが遅れる一方で、利食いは早目に行うという「利小損大」という結果に陥りがちになるからです。

期待感は、恐怖感の裏返しでもあるのです。

その意味で、人間の煩悩に支配され過ぎることになるわけです。

それでは、どれだけトレードを行っても、時間が経てば経つほど損が増えていきます。

私は、生涯収益（キャリア・プロフィット）を如何にして増大させるかを目標に独自のトレード手法を生み出しました。

それが、「スパンモデル」であり「スーパーボリンジャー」（両方とも商標登録中）によるトレードなのです。

これは、誰でも簡単に判断することができるトレード手法です。

短期のデイトレード派から、長期派まで活用することが可能です。

初心者の方から、上級者まで活用出来ます。

実際に友人である多くのプロの方にも注目して頂いているトレード手法です。

「スパンモデル」は私が考案した 相場分析手法であり、一目均衡表をベースに独自アレンジをしたものです。

これに、「スーパーボリンジャー」（ボリンジャーバンドを応用アレンジしたもの）を組み合わせ分析を行います。私の場合は、一般的な「ボリンジャーバンド」の見方とは異なり、多くの点で、特殊な分析手法を応用しております。

一般のチャート分析と何が違うのかと申しますと、何と言っても、利用方法がシンプルであることです。誰でも簡単に判断出来るということです。

この「スパンモデル」を軸にトレードされれば、誰もが収益につながるトレードを行うことが可能になるわけです。

「スパンモデル」の最大の特徴は、市場の相場要因を全て織り込んでいくという点です。

ファンダメンタルズ要因はもちろんのこと、心理的要因すら織り込んでいくのです。

「スパンモデル」の中のゾーンの形状、ゾーンと実勢レベル（ローソク足）との位置関係、そして遅行スパンが、それらあらゆる要因から生み出される相場方向を示唆してくれるわけです。

そして、「スパンモデル」と共に、相場のトレンド性（トレンドの有無、そして、トレンドの強弱等）を計った上で、相場へのエントリーと手仕舞いのレベルを計る上で強力な武器となるのが「スーパーボリンジャー」です。

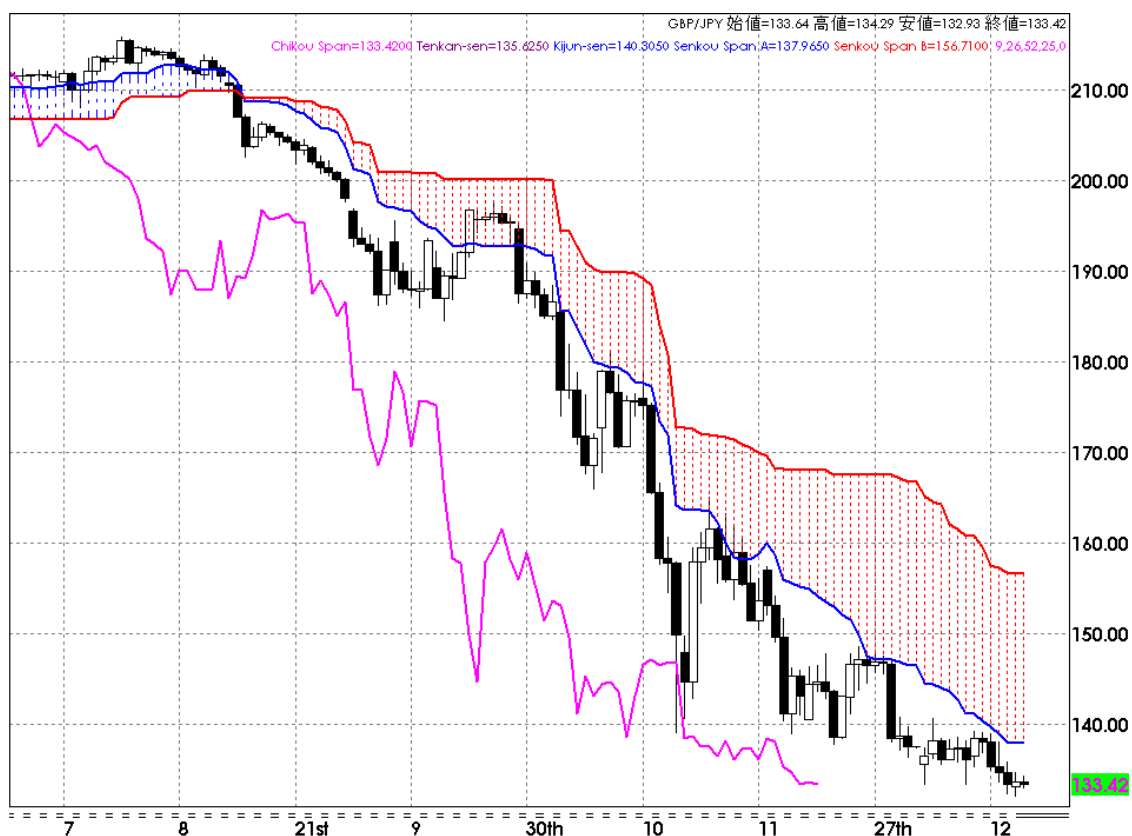
尚、私は、中長期の相場分析に際して、「時間・価格分析」を加味して総合的に判断してまいります。特に「時間分析」は、よりの確なタイミングを計る上で欠かせないものです。

以上、「スパンモデル」「スーパーボリンジャー」「時間・価格分析」を通じて、総合的に判断することにより、相場の動きを認識し、的確なトレードが可能になるのです。

どうぞ、自信を持ってついて来て頂ければ幸いです。

それでは、以下、簡単に「スパンモデル」と「スーパーボリンジャー」分析をご紹介しますと思います。

● 「スパンモデル」 についての簡単なご紹介



<チャート概略>

上記のチャートは、ポンド円相場の「日足スパンモデル」です。

チャート上、実勢のローソク足、青色のゾーンと赤色のゾーン、遅行スパン（紫色のライン）が見えます。

青色のゾーンはサポートゾーンを示し、青色スパンが上方に位置し、赤色スパンが下方に位置する場合は。

赤色のゾーンはレジスタンスゾーンを示し、赤色スパンが上方に位置し、青色スパンが下

方に位置する場合です。

続いて、トレード方法、売買の判断について、以下に簡略説明致します。

<分析、トレード方法>

買いシグナルは青色スパンが赤色スパンを上回った時です。すなわち、青色ゾーン（サポートゾーン）が出現するタイミングです。

売りシグナルは赤色スパンが青色スパンを上回った時です。すなわち、赤色ゾーン（レジスタンスゾーン）が出現するタイミングです。

シグナル点灯後は、実勢ローソク足とゾーンとの位置関係に注目です。

買いシグナル点灯中は、実勢ローソク足がサポートゾーンの上限（青色スパン）に接近する時が押し目買いのチャンスです。

実勢ローソク足がサポートゾーン内に入り込む場合は相場上昇力が弱まっている場合ですが、基本的には、サポートゾーンの下限にかけては押し目買いのチャンスでもあります。

売りシグナル点灯中は、実勢ローソク足がレジスタンスゾーンの下限（青色スパン）に接近する時が戻り売りのチャンスです。

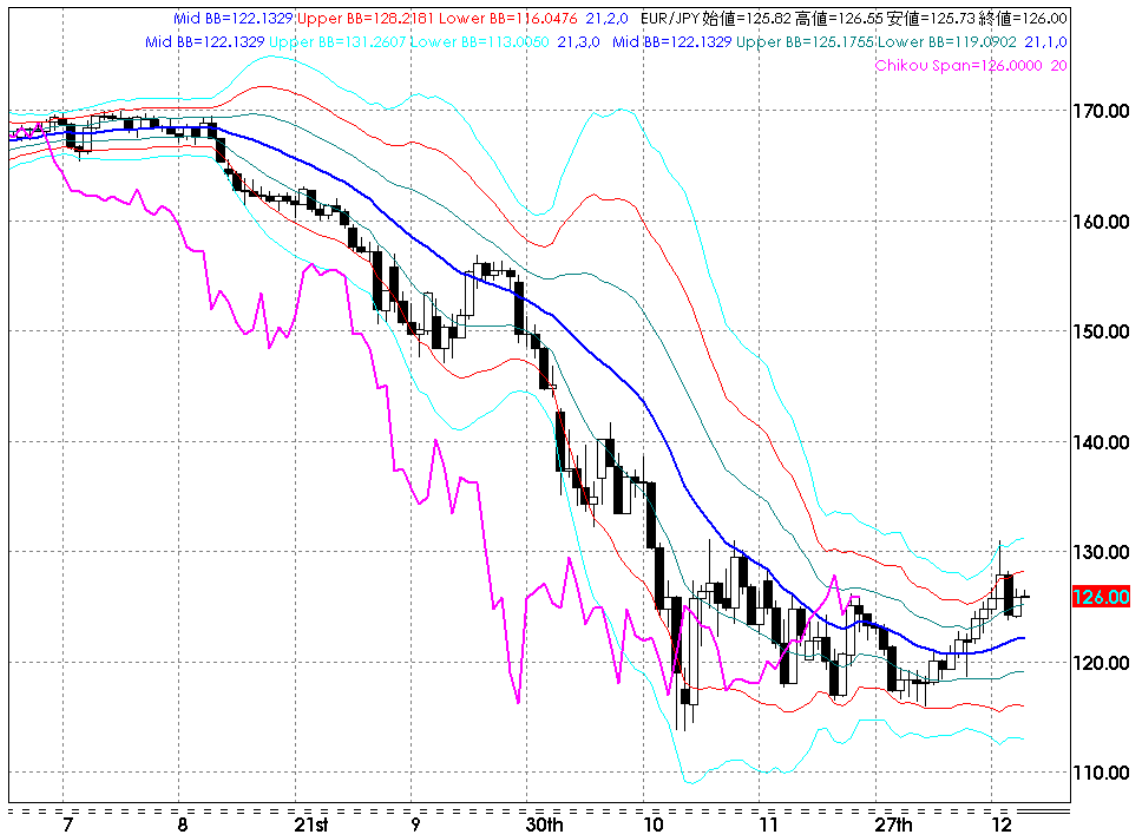
実勢ローソク足がレジスタンスゾーン内に入り込む場合は相場下落力が弱まっている場合ですが、基本的には、レジスタンスゾーンの上限にかけては戻り売りのチャンスでもあります。

遅行スパン（紫色のライン）は実態ローソク足（遅行スパンと同じ時間に位置するローソク足）の上方に位置すれば陽転（買い）、下方に位置すれば陰転（売り）となります。

この遅行スパンと先ほどの青色スパン、赤色スパンの位置関係を総合的に判断することで、相場のトレンドを計ることが出来ます。

そして、売買シグナルが点灯して以降は、遅行スパン、そして、サポートゾーン、レジスタンスゾーン的位置を確認しながら、売買のタイミングを判断するわけです。

● 「スーパーボリンジャー」についての簡単ご紹介



<チャート概略>

上記のチャートは、ユーロ円相場の「日足スーパーボリンジャー」です。

チャート上、実勢のローソク足、センターラインである21単位単純移動平均線（青色のライン、この場合は日足をベースとしているため、21日移動平均線となります）、プラス・マイナス1シグマライン（緑色の2本のライン）、プラス・マイナス2シグマライン（赤色の2本のライン）、プラス・マイナス3シグマライン（水色の2本のライン）が見えます。

そして、紫色のラインが遅行スパン（21単位、ここでは21日遅行スパン）です。スーパーボリンジャーの場合は、遅行スパンが21単位であることに注意して下さい。

続いて、トレード方法、売買の判断について、以下に簡略説明致します。

<分析、トレード方法=その1（トレンドのある局面）>

「スーパーボリンジャー」は、トレンドの有無、トレンドの強弱を判断する上で、非常に有効な分析手法です。又、トレードのエントリーや手仕舞のタイミングを計る上で有効な情報を得ることが出来ます。

一見すると、普通のボリンジャーバンドと同じですが、実際の分析方法は、多くの点で独自なものを含み、応用性に富んだものです。

センターラインの方向、バンド幅（拡大、縮小傾向等々）、実勢ローソク足（現時点）とセンターラインや各シグマラインとの位置関係、さらには遅行スパンと実態ローソク足（21単位過去）との位置関係等々に従って、トレンド性を検証、判断します。

例えば、センターライン（青色のライン）が下落方向に転じ、バンドが次第に拡大していく中で、実勢ローソク足がセンターラインを下回ると下落トレンドとなります。尚、この下回るかどうかの判断は、終値ベースで行うことが大切なポイントです。

具体例のチャートに見られるように、実勢ローソク足がマイナス1シグマライン（緑色のライン）とマイナス2シグマライン（赤色のライン）の間で推移する場合は、「巡航速度の下降トレンド」と判断されます。

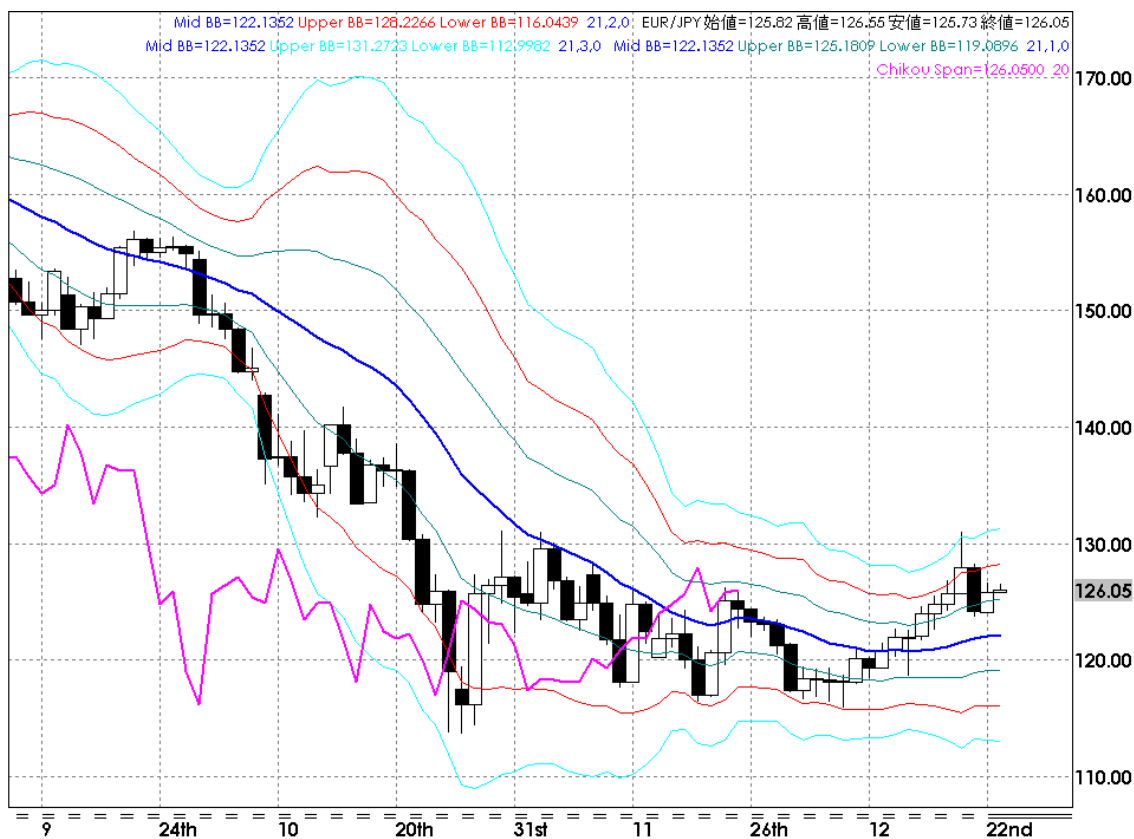
この「巡航速度」のトレンドがトレードを行う上で最も理想的なステージです。

また、具体例として、実勢ローソク足が終値ベースでマイナス1シグマラインを上抜けてくると、相場は下降トレンドの勢いが減退していることを示します。

そして、センターラインが下落傾向からフラットする過程で、実勢ローソク足がセンターラインを上回って引けると、トレンド転換の確認となります。

この「スーパーボリンジャー」と前述の「スパンモデル」を統合的に利用することによって、相場のトレンド判断の信頼度を大幅に向上させることが出来るわけです。

尚、下落局面では、マイナス1シグマラインからセンターラインにかけての水準が売り場であり、マイナス2シグマからマイナス3シグマにかけての水準が利食いの買い場となります。（上昇局面も同様です）



<チャート概略>

上記のチャートは、ユーロドル円相場の「日足スーパーボリンジャー」です。

<分析、トレード方法=その2（トレンドのない局面）>

上記のチャートでは、センターラインである 21 単位移動平均線がフラット気味に推移しているのが分かります。

「スーパーボリンジャー」のそれぞれのシグマラインの方向がフラット気味に推移している局面でもあります。

遅行スパン（紫色のライン）がローソク足に絡む動きをしている時は、センターライン（21 単位線）がフラット気味に推移していることを教えてくれています。

このような相場局面は、ボックス相場、保ち合い相場と判断され、レンジ相場と見なすことが出来るわけです。

このようなレンジ相場、ボックス相場においては、「スーパーボリンジャー」において、プラス 1 シグマからプラス 2 シグマラインにかけて売り、マイナス 1 シグマからマイナス 2 シグマラインにかけて買うという戦略が有効となります。

ロスカットの目安としては、例えば短期であれば、過去 20 単位、中期であれば、過去 60 単位という期間における高値を越える、もしくは安値を下割れるとロスカットという戦略が有効と考えます。

この方法は「ブレイクアウト」として知られる、非常に有効な手法であり、根本的な概念としては、市場価格が過去の特定の日数の中の最高値を上抜けたら買う、最安値を下回ったら売るというものです。

尚、この特定の日数に拘る必要はなく、過去のチャートを見て、サポートラインもしくは、レジスタンスラインを抜けるレベルを「ブレイクアウト」のポイントとして認識し、ロスカットオーダーを置くというのも有効と考えます。

以上、簡単ではありますが、「スパンモデル」「スーパーボリンジャー」による最強の外貨投資法のご紹介とさせていただきます。

★尚、私の相場分析に関しまして、さらに詳しい内容は、Eブック、有料掲示板、有料メルマガ等、行っておりますので、ヤフー、グーグル検索等にて、「スパンモデル」と入力して、ご参照ください。